

久住山登山マニュアル



2003年7月23日午後1時過ぎ、久住山登山実施中の中津市立沖代小学校6年生76名と13名の職員が登頂、下山開始直後霧に包まれ男児1名が遭難、46時間にわたる捜索活動の末に無事保護される遭難事故を体験しました。

本校では、今回の事故を総括する中で、今後とも子どもたちに、この貴重な野外活動の体験の場を保障し学校行事としての登山活動が後退することがないようにという言葉がたくさんの方からいただきました。

この言葉を受けとめ、活動を保障していくために、子どもたちの生命を守るという観点から今回の事故をみつめ直し、沖代小学校としての登山マニュアルを作成しました。



2003年8月31日

中津市立沖代小学校

1、登山計画立案にあたって

1、計画書立案にあたって

- (1) 計画立案にあたっては、該当学年の児童の実態を考慮し、登山の目的、日程とコース、引率体制や登山の編成等を検討し緻密な計画をたてる。
- (2) 登山に詳しい専門家に意見を求め、計画の立案に取り入れる。
(地域には、必ず山岳会の会員の方がいます。)
- (3) キャンプ終了後、その総括を児童の声を取り入れながら行い、次年度以降の活動計画に活かす。そのために、計画・下見段階からキャンプ終了までの資料を揃え、次年度へ繋ぐ。
(次年度の計画段階から活用していく。)
- (4) 計画立案は早い時期に行い、担当学年だけではなく全職員で児童の安全確保という視点から計画書を詳細に検討する。

2、下見時の留意点

- (1) 登山の経験の少ない職員が引率しなければならないことがある。
久住山登山を事前に経験することは、大変有効ではあるが必ず経験豊富な職員(いない場合は、山岳会の方に協力要請)の同行をはずさない。
山のすばらしさだけでなく、自然の厳しさについて教職員自身が学ぶことが、下見を活かすことにつながる。

【ポイント】

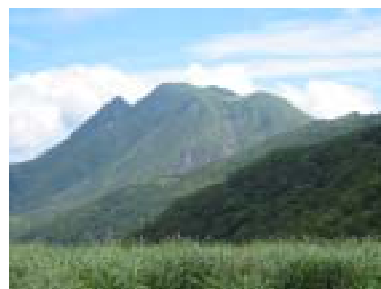
- A： 計画案に沿って行程の所要時間を細かく計る。児童の登る速度で表し、無理な時間設定になっていないか確認をする。(別紙コース案内参照)

【確認しておきたいこと】

- ・地図と現地の地形・危険箇所
- ・所要時間の調査・休憩地点・昼食地点

経路を完全掌握し、引率者の共通理解を図る。

- B： 下見ではカメラ・ビデオカメラによる撮影を行い、全職員での検討、児童との事前学習、保護者との説明会に役立てる。
- C： 連絡の必要な緊急事態を想定して、携帯電話の通じやすい場所を確認しておく。(電波状況調査)
- D： 登山実施中の天候の急変した場合を想定し児童の安全確保のための緊急対処法について確認する。(霧・雷時の対応)



3、下見後の計画変更について

(1) 下見の結果もとに当初の登山計画の見直しをおこなう。

(全職員の共通理解)

(2) 実施計画書については、最終的な児童の当日の参加数も含めて、変更があった場合は、必ず変更届を提出する。万が一、事故等発生の場合、確認に混乱が生じる。(教育委員会・警察等)

2、児童への事前指導及び保護者への事前説明

1、事前学習の構え

登山の実施が決まったら、子どもたちのめざす山のすばらしさについて情報を用意し、学ばせておく。同時に、一度天候が変わったら、人の力ではどうしようもないほどに厳しい場所であることも学ばせる。

ここに学校教育がめざす教育登山のねらいがある。山頂に立つことがあまりに強い目標になると登頂すなわち登山の成功と児童に考えさせてしまうことになる。

天候状態によっては、登山を断念することも大自然とつきあっていく大切な判断であり、そのことを学び行動する力を身につけることが何よりも大切なことだととらえられる事前学習を組み立てること。

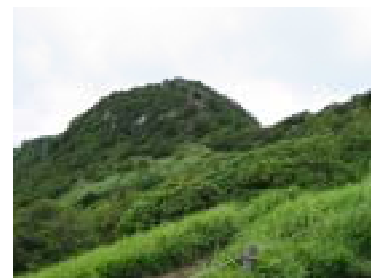
2、具体的指導

事前学習では、職員の限られた体験だけでなく、地域にいる豊富な登山経験を持つ人材の力を借り、職員共々学ぶ場を設定する。尚、登山する山の状況について写真やビデオ映像などの学習資料を準備し、児童に正しい情報を与え自分の登る山についての知識を身につけさせる。

児童に対する安全指導については、十分な時間を確保し具体的な対処方法を身につけさせる。

(1) 登山前の準備

- ・睡眠時間を十分確保し、早めに起床し食事をしっかりとり、排便をする。
- ・健康状態の確認をする。(熱、腹痛等)体調のすぐれない場合は担任に連絡する。
- ・登山の準備を確認する。(持ち物・服装等)

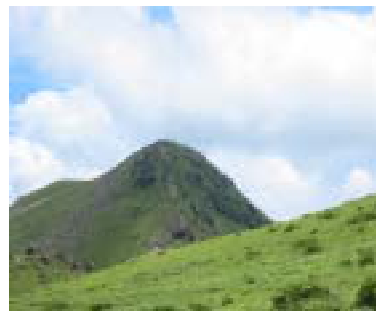


(2) 登山中の対処法

- ・登山中は、決められた隊列を守り、むやみに前の人を追い越したりしない。
- ・体調を崩したりケガをしたり等の理由で立ち止まる状況が起こった場合はグループが止まり、引率の職員に連絡をとり全体を止めてもらう。
- ・体調不良やケガの場合は速やかに引率の職員に連絡し指示を受ける。
- ・前の人を見失ったり、道に迷った場合は、その場をむやみに動かず助けを待つ。そして、自分の位置を知らせるため声を出す、笛を吹くなど

の対処をする。

- ・天候の急変など非常時の場合は慌てて自分（自分たち）で判断せず引率の職員の指示を待ちその指示にしたがい安全な行動に心がける。
- ・岩につけられているペンキのマークは登山道を示しています。



3、保護者との共通理解

保護者説明会でも、文面だけではなく、写真・スライド等を使用しながら、登山計画を説明し、保護者の意見を参考にしながら、安全な登山のための共通理解を深める。

3、登山実施中の児童の安全確保

- (1) 天候の変化の状況に応じて、登山実施可否の協議を柔軟にしていく。そのため、隊列をいつでも止められるように先頭引率者は必ず複数配置する。
(児童の安全確保要員と連絡要員：可能ならば管理職は先頭に)
また、隊列は絶対とぎれないようにする。体力の弱い人を前に配置。

【山の天候：知識】

天気予報は特定の場合以外は平地の天気を予報する。
標高2000m位になれば山の四季ははっきり区分できない。
気温10℃以下に下がると夏でも疲労凍死することがある。
風速1m/sごとに体感温度が1℃下がる。
普通は標高100mごとに0.6℃下がる。
雷はラジオに放電雑音が入り始めたら100m以内に発生。
雷鳴が聞こえ始めたら10m以内、落雷圏内に入ったと思え。
積雲が積乱雲に発達するときは要注意。雷3日。
上空に北の高気圧があるときは要注意。

- (2) 特に、避難小屋からの最終登頂判断は、天候の善し悪しに関わらず必ず実施する。【急激に天候が変わる可能性は必ずある】
- (3) 決行の場合は、児童の安全確保のために次のことを確認の上、登頂を始める。

職員の配置・役割の確認

引率職員の数には限りがある。何よりも必要なことは引率者

の管理下で、隊列を崩さずに登頂・下山を実施していく。

児童の引率の先頭に行く職員は、写真撮影等の引率以外の役割を担わない。また、必ず下山時の集団の先頭と最後尾に職員がつき、隊列を組んで下山させる。

緊急時の対処の仕方

・ 隊列内の連絡方法・携行備品の確認

- 無線機またはトランシーバー ・ 救急薬品 ・ 細引き
- ・ 布ガムテープ（捻挫時固定用） ・ 磁石 ・ 地図
- ・ ラジオ（AM受信、雷感知用） ・ 小型懐中電灯
- ・ 携帯電話 ・ 携帯電話充電器

・ 児童の健康・体調管理

児童の体調やお腹のすき具合を考慮し、昼食時間を十分確保できるような時間的に余裕のある計画をたて登山に臨む。

行程が計画より遅れている場合は、登頂にこだわらず、児童の食事を優先させる。

リュックには少なくとも飲料水・食料・雨具・防寒用ポリ袋を入れ、必ず登山中全行程で携行させる。

【予想される状況】

降雨水ぬれ、発汗、風による体温低下。過呼吸症候群は注意（着替え・防寒用上着の携行）

熱中症（異常に体温が上昇し非常に危険）

水分・塩分補給・冷却

捻挫、骨折、擦過傷、虫さされ、まむし咬傷

（布のガムテープは必需品：捻挫等の場合の固定用）

日焼け防止

・ 児童の指導

最終登頂前に、天候の急変の可能性及びその場合の対処方

法について、児童に再度、指導する。

前が見えなくなったり、道に迷った場合は、その場に座り動かない。（職員が必ず迎えに行く。）

自分の位置を知らせるための笛を吹く。

（登山用の笛があるので、学校備品として備えるとよい。）



人数確認ポイントの共通理解

児童の下山の際には、下山道の分岐点を児童の人数確認のチェックポイントとすることで、迷い込み防止を兼ねることができる。(南登山口分岐・中岳分岐・久住分かれ)

このことは、万が一遭難の場合の搜索範囲の絞り込みに関わってくる。

山頂付近でいったん集合する。【南登山口分岐は、かなりの人数を掌握できる場所を確保できる。また、食事の場所にも適している。】天候が不安定な場合は、この地点から少人数ずつ職員の先導のもと登頂する。下山時も、この集合場所まで下り、全員の確認を行った上で下山を開始する。

4、安全を追究する登山実施に当たって

(1) 緊急時の対応

所轄の警察署、消防署の調査と計画書の提出

【登山計画書に必要な記載項目】

団体名(学校名) 代表者名 所在地
連絡先 登山目的と山岳名
日程とコース(行程と時間割り)
参加者(リーダー等の指定と役割分担)
携行装備品・服装等
携行食料・水等の量 通信手段

責任者は、所持携帯電話の番号の全てを把握しておくこと。
医療機関の把握をしておく。

(2) 登山装備品(無雪期日帰りの場合)

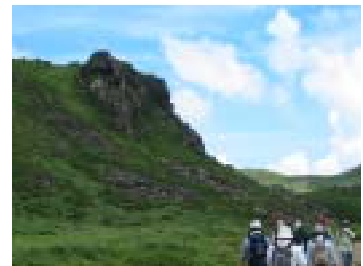
【個人装備】

服装・履き物

- ・長袖シャツ ・Tシャツ、ポロシャツ
- ・ズボン(綿は動きにくい)・手袋
- ・帽子(出来れば赤白帽子) ・ウインドブレーカー
- ・防寒着 ・はき慣れた運動靴・くつ下 ・下着の着替え

携行品

- ・雨具(セパレートタイプ) ・飲料水(最低1,5リットル)
- ・間食 ・非常食 ・ゴミ袋(120リットル:非常の場合の防寒)
- ・タオル ・常備薬



【引率者装備】

- ・無線機またはトランシーバー
- ・布ガムテープ（捻挫時固定用）
- ・ラジオ（AM受信、雷感知用）
- ・磁石
- ・地図
- ・小型懐中電灯
- ・ヘッドランプ
- ・携帯電話
- ・携帯電話充電器



（３）緊急時の対応の仕方

遭難事故発生の場合

- ・まず、直接地元警察に捜索要請の連絡（少しでも早く）
 - 【玖珠警察署：0973-72-2131】
 - 【長者原駐在所：0973-79-2352】
 - 【竹田警察署：0974-63-2131】
 - 【久住駐在所：0974-76-1131】
- ・次に学校との連絡「学校は対応マニュアルを確立しておくこと」
保護者との連絡・教育委員会への連絡・職員への連絡
PTA会長への連絡（保護者との連携）

体調悪化・ケガの場合

- ・緊急を要する場合は、遭難事故発生時の対応に準じる。
- ・現地での治療で回復が見込める場合は、処置をする。その場合も、下山後速やかに病院等へ送れる連絡をとる。

気象状況の急激な変化発生の場合

【霧の発生】

- ・現地での適切な対応をとるとともに、状況を警察に連絡し指示を受ける。同時に、学校へも緊急連絡を入れる。

【雷の発生】

- ・雷雲等の発生にラジオを利用しながら注意を払い、早期に下山を実施する。
- ・下山の余裕がないときは、次のことに心がける。
 - 姿勢を低くする。
 - 木、岩の付近を避け、できるだけ平地の凹地に身を伏せる。
 - 絶対に動かない。
 - 金属製の物は身から離す。

《終わりに》

このマニュアル作成に当たりましては、次の資料を参考にさせていただきました。

- ・大分県山岳遭難協議会、大分県警察本部作成
「夏山登山の警告」「登山する前に」
- ・大分岳童会：渡部廣善氏 沖代小学校での講演資料